

「^{ゼロ}0次予防」とは

従来の予防医療の枠を超えて、地域や社会全体の環境を整えることで、自然と健康的な生活が送れるようにする新しい予防の考え方です。

健康教育・保健指導を通じた個人レベルでの行動変容による疾患発生の「1次予防」、健診などによる早期発見・早期治療の「2次予防」、発症後の再発予防やリハビリテーションなどの「3次予防」に対し、原因となる行動をもたらす背景へのアプローチ、すなわち、原因の原因まで遡って予防するのが「0次予防」と言われています。

21世紀における国民の健康づくり運動である「健康日本21」における予防の概念の一つとして、個人レベルでの努力や意識改革に頼るのではなく、地域や社会全体で健康的な環境を整備し、誰もが自然に健康的な行動をとりやすい状況を作ることを目指すものとされています。

「軟骨伝導イヤホン」とは

軟骨伝導イヤホンとは、従来の「空気伝導」や「骨伝導」とは異なる、耳の軟骨を通じて音を伝える技術を用いたイヤホンです。耳の穴（外耳道）をふさがず、耳の周辺にある軟骨部分にイヤホンを接触させて音を伝えるため、外の音も聞こえやすく、安全性と快適性を両立しています。

主な特徴として、耳をふさがない設計、周囲の音も同時に聞こえるため、安全に使用できます。骨伝導イヤホンよりも軽快な装着感で振動が少なく、長時間の使用でも疲れにくいとされています。音漏れが少なく、音が外部に漏れにくく、公共の場でも使いやすいのが特徴です。衛生的にも耳の中に差し込まないため、清潔に使えます。

近年では自治体の窓口業務においても、聴こえに配慮した機器の導入が進んでおり、市役所の窓口サービスに非常に適しています。

以上のように、軟骨伝導イヤホンは、「安全性」「快適性」「多様な利用場面への適応性」を兼ね備えた、新しい音声伝達手段の一つです。価格は1台あたり5,000円から30,000円と幅があるようです。

◇千葉県内の導入事例（自治体ホームページより）

1, **四街道市**では、2023年10月23日より市役所本庁の各窓口（窓口サービス課、国保年金課、社会福祉課、高齢者支援課、障害者支援課、地域包括支援センターなど、計8ヶ所）に「集音器付き軟骨伝導イヤホン」を配備し、耳が聴こえにくい方の支援を開始しました。県内自治体での初導入として注目されています。

2, **旭市**では、旭市役所本庁舎1階・高齢者福祉課（13番窓口）にて、「軟骨伝導イヤホン（軟骨伝導式集音器）」を2025年5月に設置しました。来庁者が聞こえに不安を感じる場合に利用できる支援として、環境整備がされています。

3, **東庄町**では役場および保健福祉総合センターの窓口にも、2025年2月（更新）「軟骨伝導イヤホン」が導入されました。窓口での

聞き取りの支援を目的とした設置で、利用希望者は職員に気軽に声がけできるよう案内がされています。

4, **山武市**では、本庁舎の高齢者支援課窓口（市役所1階11番窓口）および地域包括支援センターに「軟骨伝導聴覚補助イヤホン」を導入済みです。更新日は2024年7月16日です。

5, **松戸市**では、令和5年度に市役所の障害福祉課や健康推進課、市民課の窓口、地域包括支援センター、支所など計87個の軟骨伝導イヤホンを導入済みです。

6, **印西市**では、2025年5月1日から障がい福祉課の窓口にて「軟骨伝導イヤホン」を導入しています。専用バッテリー付きで、他課に持ち運んで使用することも可能で、窓口での円滑なコミュニケーションをサポートしています。[印西市公式サイト](#)（機器の画像有）

その他、7, **富里市**、8, **九十九里町**、9, **佐倉市**、10, **浦安市**、11, **八街市**、12, **山武市**、13, **習志野市**、14, **八千代市**での導入を確認しました。